

10・10空襲とは？

1944年（昭和19年）10月10日、米軍は南西諸島全域に大空襲を敢行しました。10・10空襲と呼ばれるこの空襲によって、那覇市は一挙に炎上し壊滅してしまいました。

米軍の攻撃目標は飛行場と船舶や軍施設でした。県都である那覇市では民間居住地域にも焼夷弾による攻撃を加え、大きな被害を出しました。

午前6時40分の第一次攻撃から午後3時45分の第五次攻撃まで9時間にわたる波状的空襲が行われました。のべ1,396機の米軍艦載機が縦横無尽に爆弾や焼夷弾を投下しました。

当時の那覇市の人口は約6万人、戸数約1万5千戸、その被害は死者225人、負傷者358人で、焼夷弾攻撃により全市域の90%近くが焼失してしまいました。